沿　革・土　地・気　象

1. 沿　　革

古代阿波の忌部氏が今の安房の地に上陸し，粟，麻，木綿の栽培法を教えたので，粟に基いて阿波にちなみ「安房」の名が起り，麻のよくそだつ国を「総」の国といった。

後に都に近い所を上つ総，遠いのを下つ総といった。こうして安房，上総，下総の三国が定ったのである。

大化改新以後，それぞれの国には国司の役所が置かれ，その所在地は安房国府（安房郡三芳村），上総国府（市原郡市原町）下総国府（市川市国府台）であった。蝦夷経営の要地として，軍団が設けられ，駅の制度も整っていた。そして奈良時代にはこの三国にそれぞれ国分寺が建立されて，地方文化の中心となったようである。

平安時代には地方政治が紊乱して，天慶年間に平将門の乱が起り，ついで平忠常の反乱等もあったが，源頼朝が鎌倉に幕府を開くことに先立っては，千葉常胤，上総広常の功があり房総に大きな勢力を占めていた。

のち北条，吉野の両時代を経て，室町，戦国時代となり，中央政権の争奪戦や関東管領の対立抗戦の中に巻きこまれたので，房総の地は四分五裂して人民は大いに苦しんだのであった。

やがて，豊臣秀臣が天下を統一し，関東の地を家康に与え，次いで家康が江戸に幕府を開くと，房総の地はお膝下として重要であるため，あるいは直領を置き，あるいは佐倉藩をはじめ譜代の小藩を分立せしめて，大同団結を禁じた。初期には９藩，幕末には16藩，明治初年には24藩であった。

王政復古の大業が成ると，上総安房県と下総県とがおかれ，２年には葛飾県と宮谷県とが新設され，同年６月藩籍奉還によって旧藩主は藩知事となり，４年７月廃藩置県によって県となった。

安房では館山県ほか３県，上総は大多喜県ほか10県，下総は佐倉県ほか６県，更に同11年改めて上総，安房両国を合して木更津県を，下総国に印旛県をおき，６年６月木更津，印旛の両県を廃して千葉県となし，県庁を千葉町においた。

８年５月新治県所管の香取，匝瑳，海上の３郡が千葉県の管地となり，７月には葛飾郡の一部を埼玉県と東京府に，香取郡の一部を茨城県に割いて，江戸川，利根川を境界とする現在の千葉県の境域が決定した。